

2015 年
政策公約（マニフェスト）

「継続 発展・安心安全プラン」
（9 政策 60 施策）

2015 年 10 月
内野まさるを支援する会

基本姿勢

◎住みたい 住み続けたい えびなを創ります。

◎えびなの市民力を高め、現地現場主義により
まちづくりを進めます。

◎人口対策、行政経営革新により、持続可能な
まちづくりを推進します。

目次

1	海老名駅東西一体のまちづくり	3
2	将来を担う子どもたちが生き生きと育つまちづくり	4
3	誰もが安心して暮らせるまちづくり	5
4	安心・安全のまちづくり	6
5	地域経済の活性化、地域力アップのまちづくり	7
6	自然と環境にやさしいまちづくり	7
7	心ふれあうスポーツ・文化のまちづくり	8
8	かがやき持続総合戦略における〈地方再生まちづくり〉	9
9	健全財政を維持し、持続可能な都市経営によるまちづくり	9

1 海老名駅東西一体のまちづくり

(1) 現状と課題

①海老名駅西口に盛んな民間投資

海老名駅西口区画整理が進み、大型商業モール、金融機関、ホテル、保育所そして住宅・マンションなど民間の企業進出が相次いでいます。完成時には雇用者増 4,000 人、居住人口 3,000 人の計画です。

さらに、小田急電鉄が発表した駅間（小田急～JR）開発が来年から始まり、10 年間で 600 億円が投資され、マンション、ホテル、業務ビルなどが計画されています。完成時には雇用者増 1,400 人、居住人口 2,200 人の計画です。

小田急線から相模線までの間が、自由通路で結ばれたことにより東西駅前が空中遊歩道でつながり、文字どおり駅の東西一体のまちづくりが出来ようとしています。

②ロマンスカー停車

30 年来の悲願であった「小田急ロマンスカー」が来年 3 月から上下線 10 本つつ海老名駅に停車します。海老名市のイメージアップ、ポテンシャルに大きく貢献し、現在神奈川県内私鉄・JR 計 385 駅中乗降人員で 265,000 人・8 位の海老名駅は、まさに県央のターミナル駅に大きくジャンプアップします。

③次世代につなぐ財源

西口土地区画整理組合への公共投資は大型商業モールの出店を呼び、多くの企業がぞくぞくと投資を行う相乗効果が起き、県内有数の活況を呈しています。市の税収にも大きく貢献します。試算では、今後小田急開発が完了するまでに 57 億円、その後毎年、15 億円の税収が見込まれています。

現役世代の責務は、次世代につなぐ持続可能なまちづくりにあります。この一連の計画的取り組みによる税収増は、この視点に貢献するものです。

④交通渋滞等

マイカー利用による買い物客で相当の交通渋滞が予想されます。計画当初から県道（下今泉門沢橋線）の早期 4 車線による相模線立体化を県に要望するとともに、市道整備（上郷河原口戦）を図ってきました。リーマンショックによる県財政悪化により県道設計の変更、市道の JR との調整に時間がかかり拡張用地交渉が難航しました。この解決が喫緊の最重要課題です。

海老名駅東西の商業施設は、当市の人口に比してオーバーストアではないかとの指摘がマーケティング時から課題となっていますが、周辺市町村からの集客をいかに図るか、民間資本と関係者の戦略にもかかっています。

(2) 課題への取り組み

① 海老名駅周辺について

- ◇市道路マスタープランに基づいた市道整備を促進するとともに、県道整備の推進を県に強く要請します。
- ◇当面は、事業者、行政、警察関係と連携して、地域への影響を最小限に留める対策を講じます。
- ◇緊急事態についての対応は、消防・救急隊を北部地区に配置します。
- ◇海老名駅北口の新設は、相鉄駅舎改築と併せて行います。
- ◇ビナウォーク北側の土地利用について、計画素案を基に地権者、商店街と協議しながら促進します。
- ◇東口自由通路の延伸（県道横断）については、調査終了後、実施設計を策定し整備を進めます。

② 厚木・社家・さがみ野駅周辺について

- ◇厚木駅については、再開発準備会の組合設立とともに、その整備を進めます。
- ◇社家駅については、JRのバリアフリー化に併せて、駅前整備を進めます。
- ◇さがみ野駅については、駅前交番の早期実現と南北広場の計画策定を進めます。

2. 将来を担う子どもたちへのまちづくり

(1) 現状と課題

現在、保育園待機児童は解消に至っていません。海老名駅西口及び駅間開発によって保育園需要はさらに高くなると思われます。

中学校3年生までの小児医療費助成は、県下でもいち早くスタートして好評を得ていますが、コンビニ受診、少子化対策の面から疑問が投げかけられています。

児童の放課後の課題は国の方針・制度が確立されつつありますが、市内の学童保育は民設民営で長い期間運営されており、国の基準に合わない状況で、料金もまちまちで、保護者負担が大きい現状にあります。小中学校での給食費、教材費、修学旅行費なども大きな負担になっています。

今年4月に海老名市教育総合会議が設置され、教育大綱が決定されました。教育の政治的中立はこれまでどおり守ってまいります。

(2) 課題への取り組み

- ◇待機児童の解消に向け、南部・中部・北部に民間を含めて、保育園の増設を進めます。
- ◇県下トップクラスの小児医療費助成を継続し、コンビニ受診の調査、対策を講じます。
- ◇結婚・出産・子育て支援のため、子育て世代包括支援センターの整備をします。
- ◇身近に子育て相談ができるよう子育て支援センターの地域版設置を進めます。
- ◇学童保育については、公設民営を基本に、質的な充実と体制強化を進めます。
- ◇学校における保護者負担の軽減をさらに図ります。
- ◇オリンピックをふまえ、小中学校の英語力向上をめざします。

3. 誰もが安心して暮らせるまちづくり

(1) 現状と課題

市の高齢化比率は65才以上が29,783人で22.82%、うち75才以上は13,000人に達しようとしています。数年後に4人に1人が65才以上となる超高齢社会に突入します。お年寄りの日常生活、生きがい、医療、介護などについて、かつて経験したことのない領域での施策の構築が必要となっています。

介護保険の支出は、介護対象者1人平均140万円(年間)が支出されており、介護保険特別会計は増大の一途をたどっており、第2の国民健康保険特別会計のようになるのではと、危惧されています。

また、75才以上の方が加入している後期高齢者医療は、一人平均79万円(年間)が支出され、年々増加しています。

障害福祉は、県下トップクラスの施策が展開されていますが、今後さらに雇用、住宅など自立環境の整備が必要です。

(2) 課題への取り組み

- ◇地域で安心できる医療・介護が一体となった地域包括ケアシステムを進めます。
- ◇特別養護老人施設の増設を図ります。
- ◇予防医療の取り組みとして、40才以上の国保加入者(原則2,000円)の特定健康診査の受診率の向上を図ります。
- ◇健康寿命を延ばすため、検診料の助成を継続し、内容の充実を進めます。

- ◇市内スポーツ施設の健康メニューの充実と民間施設との連携を図ります。
- ◇元気な高齢者の方々が気軽に行ける地域サロンの設置を進めます。
- ◇「元気 65」の制度を充実させ、高齢者の負担軽減を図ります。
- ◇障害者福祉については、「よりそう心」をもって、生涯設計が描けるように具体的な取り組みを進めます。

4. 安心・安全なまちづくり

(1) 現状と課題

海老名警察署が完成した平成 13 年の犯罪件数は、3,300 件を超えていましたが、現在は、1,000 件を割る状況になっています。警察署の犯罪対策強化はもとより、市民による地域防犯パトロールの成果といえます。

また、災害対策ではすべての公共施設において耐震化が進みました。東日本大震災で被害が発生した姉妹都市の宮城県白石市に職員を派遣し、救援物資を搬送したこと等を通して、新たに多くの教訓を得ることができました。

市内 3 ヶ所の大型備蓄倉庫の整備、非常用燃料の備蓄 (全国でも例のないガソリンスタンドの確保)などは、県下一です。

水害対策については、豪雨時に田畑、道路への冠水がありますが、いずれも県所管の河川の未整備区間が多く、整備促進を県に働きかける必要があります。

(2) 課題への取り組み

- ◇防犯カメラの設置を進め、犯罪のない地域づくりを進めます。
- ◇地域での防犯パトロールの強化充実を図るため、支援を進めます。
- ◇地震時に火災を防ぐため、感震ブレイカーの設置を進めます。
- ◇大型マンションの耐震診断、耐震工事に対し、その一部の補助を進めます。
- ◇防災備蓄品については、食糧、水、薬剤などの備蓄を継続、充実します。
- ◇丘陵市街地での災害用水確保について検討を行います。
- ◇雨水整備率は 44%で、豪雨時に道路冠水が発生するため、その対策を県への働きかけと併せて積極的に進めます。

5. 地域経済の活性化、地域力アップのまちづくり

(1) 現状と課題

地域には、さまざまな問題、課題があります。交通安全、防犯、地域福祉、コミュニティづくりなど行政と地域、地域同志が連携するまちづくりが求められています。

地域の商店街にはシャッター通りは無いものの、止むなく閉店したケースも見受けられます。海老名駅を中心にショッピングモールが集中していることも、その影響が一部出ているものと思います。

中小企業については、実態的に経営が上向いていることが実感できない状況があり、2年後の消費税10%がどのように影響するのか、懸念されます。

農業においては、後継者不足、経営の不安定、荒廃農地の増加など多くの課題があります。

(2) 課題への取り組み

- ◇地域を総点検し、きめ細かに対応するために、地域づくりの計画を進めます。
- ◇地域の拠点づくり（自治会館など）、地域福祉の拠点づくり（地区社協）への助成を充実します。
- ◇地域は地域が創るという理念のもと、自治会交付金制度の検討を行います。
- ◇地域の特性を生かしたイベントなどに助成を検討します。
- ◇地域商業の活性化を図るため、「にぎわい条例」を策定し、具体的な取り組みを進めます。
- ◇商工会議所と連携し、プレミアム商品券の検証を行い、効果ある地元商品券の取り組みを進めます。
- ◇農地の集約、集団化を図り、効率的で元気の出る農業経営を支援します。
- ◇園芸農業、農産物のブランド化に対し、助成支援を行います。
- ◇学校給食のシステムを改善し、地産地消を進めます。

6. 自然と環境にやさしいまちづくり

(1) 現状と課題

地球温暖化への対応は、資源の浪費を無くし、地球環境にやさしい、資源循環型社会の構築が急務と言われています。一人ひとりが「地球規模で考え、身近な所から実践」することが求められています。

相模川の流れ、大山の眺望、海老名耕地の田園風景、河岸段丘斜面緑地は市民共有の貴重な財産です。これを継続して守り育ててゆく必要があります。

(2) 課題への取り組み

- ◇ゴミの減量化・資源化をさらに進めるために 3R(再利用・再使用・発生抑制)を積極的に取り組みます。
- ◇戸建住宅 10% 再生エネルギー設備導入を図ります。
- ◇省エネと CO2(二酸化炭素)削減のため、すべての公共施設の照明を LED 化します。
- ◇電気自動車 (EV) など次世代自動車の普及環境整備を一層促進します。
- ◇県立三川公園の拡張整備を神奈川県に強く要請します。
- ◇相模川河川敷(河原口)の市民憩いの場としての高度利用を進めます。
- ◇「空家・空地適正管理の条例」の制定を実行効果あるものにするために、様々な手法で取り組みます。
- ◇横須賀水道の跡地を緑道、遊歩道に整備します。

7. 心ふれあうスポーツ・文化のまちづくり

(1) 現状と課題

人生 80 年時代を迎えて、人々が生涯スポーツや芸術、文化への接触を通して、心の充実を図り、それぞれの生活の質を高めようとすることは自然な欲求です。身近に様々なスポーツ施設や文化施設が整備されて、容易に利用できるようにすることが必要です。

ラグビーワールドカップ、オリンピックが開催されるので、その役割の一端を果たします。

(2) 課題への取り組み

- ◇2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致活動を展開します。
- ◇オリンピック開催をふまえて、ボランティアの英語力向上をめざします。
- ◇海老名の歴史・文化・芸術にふれる親しむ機会の充実と活動を支援します。

8. 「かがやき持続総合戦略」における〈地方再生まちづくり〉

(1) 現状と課題

政府は、人口減少に歯止めをかけ持続可能なまちづくりを主な目的に「まち・ひと・しごと創生法」を平成26年11月に制定しました。来年度から5年の間、地域の特色を生かした戦略をつくることを市町村に求めており、総合戦略を策定した自治体の効果ある事業に対して交付金が助成されます。

人口増が大きな課題となっていることを踏まえ、「かがやき持続総合戦略」と銘打って、「社会増3万人実現」に取り組みます。

(2) 課題への取り組み

- ◇住宅リホーム助成事業は現状の制度を進化させ、定住性を高めます。
- ◇子育て住宅建設に向けて、企業と連携を進めます。
- ◇学生が住む街に向けて、具体的な取り組みを検討します。
- ◇「婚活」を検討します

9. 健全財政を維持し、持続可能な都市経営によるまちづくり

(1) 課題

迫りくる高齢社会、将来の人口減少社会到来を見据えて、中長期的視点にたった「持続可能な都市経営」戦略が求められています。

自然と都市のバランスがとれ、かつ海老名市がこれからも元気な行政水準を維持していくには、民間投資を呼び、税収、雇用、消費、景気の好循環サイクルを創りだす“力”が不可欠です。

神奈川県下で、海老名市はトップクラスの財政水準です。子や孫の次世代に財政負担のツケを残さないために、これからも、健全財政を維持できる財政政策を構築してゆく必要があります。

財政運営の長期的安定を図り、社会資本投資、民間設備投資を呼び込み、将来にわたって安心・安全なまちづくりのための財源構造を創ります。

■表① 海老名市主要財政指標の状況 政令市を除く県内 16 市との比較 (平成 26 年度決算)

項番	指 標	内 容	県内 16 市 平均	海老名	順位
1	公債費負担比率 (%)	公債費(市債の返済)から財政運営の弾力性を測る比率	12.4	9.8	3
2	実質公債費比率 (%)	一般会計が負担する公債費やそれに準じた経費の程度	4.7	0.7	3
3	将来負担比率 (%)	将来負担すべき実質的な負債の割合 → 詳細下図	52.3	—	1
4	財政力指数 (H23~25 平均)	財政力を示す指数	0.93	0.99	4
5	経常収支比率 (%)	歳入に占める経常的支出の割合	101.4	97.2	5
6	義務的経費比率 (%)	硬直性の高い	52.6	44.4	1
7	市民一人当りの市債残高 (%)	市民一人当りの市債(借金)残高	472,280 円	307,709 円	1

○資料出典：県内各都市の財政指標等 (平成 26 年度決算) (企画財政課資料)

■経常収支比率の状況 (平成 26 年度)

項 目	経常収支比率	県内 16 市順位
海老名市	97.2%	5
*1 政策的経常経費を除いた 経常収支比率	87.0%	
県内平均	101.4%	

*1 ○政策的経常経費は、市が政策的判断により、国・県制度に上乗せ拡充を行っている事業また単独で行っている事業です。

中学 3 年生までの子ども医療費助成事業、障がい者医療費助成事業、特別支援教育充実事業費、肺ガン・口腔ガン検診事業などが含まれています。

○経常経費比率は、政策的経常経費を除くと 10 ポイント程度下がります。

◎将来世代の負担も圧倒的に少ない

税収の収入構成も自立性が高く、将来起きるであろう「将来負担率」（表①項番 3）は県下 16 市の中で最も低い位置にいます。海老名市は、どの数値をみても健全財政を堅持しており、効率的な行政経営にまい進しています。

◎市債（借金）残高、16 市の中で最少

表①項番 2 のように、市債残高は約 400 億円ですが、他市との比較は人口比で比べると分かり易く、16 市の平均借入金は市民一人当たり約 47 万円、海老名市は約 29 万円で 16 市の中で最も低いのです。

◎福祉・インフラ整備に積極的に投資し、かつ健全財政を堅持しています

収入を安定的に確保しつつ、社会保障費支出の多い扶助費、遅れている生活上のインフラに重点的に支出しています。市債（借入金）残高は減少し、健全財政を維持しています。

(2) 課題への取り組み

◇機能的な行政組織の運用

地方分権の進展や多様化する市民ニーズに対応し、市民に分かりやすく、機能的な行政の運用を図ります。

◇各種イベント事業のあり方の見直し

各種イベントについては、所期の目的の達成状況などを検証し、他市の状況等も踏まえ見直しを検討します。

◇公共施設再編計画の策定

公共施設白書を踏まえ、公共施設再編に関する基本方針を策定し、維持管理コスト、人口動態、地域特性、利用実態、市内バランス等を考慮した公共施設再編計画を策定します。

◇座間・綾瀬における広域的取り組みを進めます。

消防活動、ゴミ収集事業、保育園業務などについて、広域視点に立って効果的な運営に取り組みます。

◇効率的な行政の推進

行政と民間との適切な役割分担のもと、効率性、専門性、行政責任の確保等の観点を踏まえ、民間委託の推進、指定管理者制度の効果的な活用を行います。

以上

マニフェストを読んで選挙に行こう。

内野まさるを支援する会 海老名市上郷 1-18-24

TEL : 046-206-4353

FAX : 046-205-0128

URL : <http://www.masaru-uchino.com>

E-mail : utino.masaru@orange.plala.or.jp

内野まさる

検索

クリック

